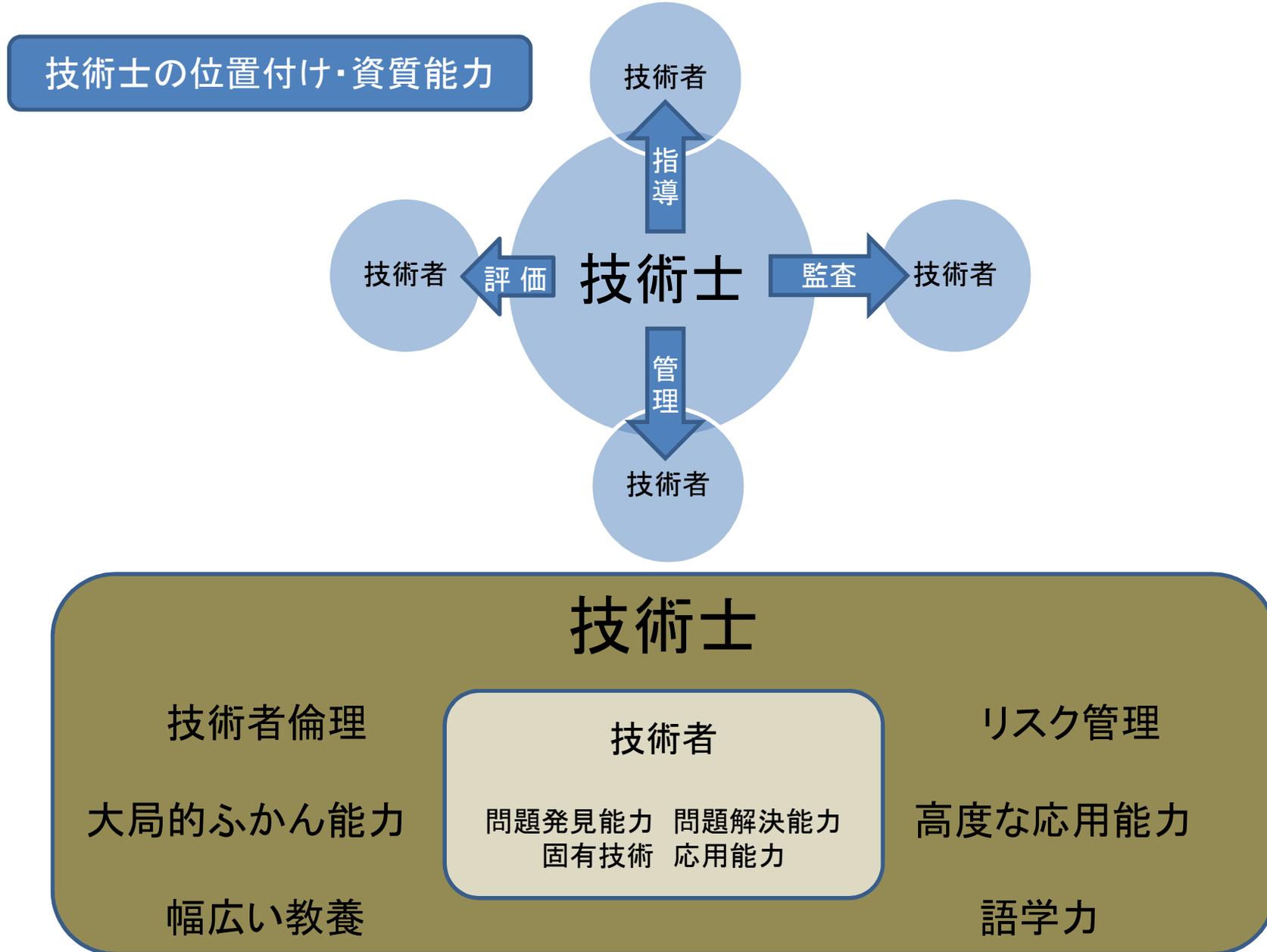


技術士制度のイメージ(素案)



技術士試験(技術士資格)の位置付け

- ・技術者としての技術力(知識・経験・応用能力等)を客観的に確認する手段・尺度
- ・業務の相手先(コンサルタント業務のクライアント等)からの信用力を得る手段
- ・企業等管理職の登用・昇格試験で活用
- ・自己の実績回顧・知識整理を経て、将来への業務発展の源
- ・社会貢献
- ・自己研さん
- ・技術者としてのスタート地点、折り返し地点

技術士試験の負担軽減方策

- ・高度かつベテラン技術者が受験を容易にする方策
例)
 - ・実務経験年数の重視
 - ・業務経歴票の重視
 - ・口頭試験の重点化

技術士資格の望ましい取得時期・年齢

- ・一定の業務経験年数と責任ある立場の者
(職名、年齢の例)
 - ・主任(30~35歳)、係長(35~40歳)
 - ・課長(40~45歳)、次長
 - ・管理職(42歳程度)

総合技術監理部門

- ・20技術部門の上位に置く部門として位置付け
- ・20技術部門取得後に、一定のCPDを経て、総合技術監理部門を取得
- ・総合技術監理部門で取得すべき内容

例)

- ・現行の5事項(安全管理、社会環境との調和、経済性(品質、コスト及び生産性)、情報管理、人的資源管理)
- ・工程管理
- ・リスク管理、リスクコミュニケーション能力
- ・国際感覚

技術部門・選択科目

・現在の科学技術・イノベーション推進による産業・社会の諸課題は、複数の専門領域の技術・知見を融合しないと解決できなくなっているため、技術部門・選択科目の再編成を行う

(例)

- ・定期的な見直し: 10年ごとの見直し
- ・20技術部門 → 5程度の大くりの技術部門
- ・96選択科目 → 1部門において4科目程度、合計80科目程度

CPD

- ・最新の科学技術、関係法令、国際感覚、環境、安全等を体系的に修得
- ・一方的な受講にとどまらず、双方向的な議論、論文作成など、積極的・能動的な取組を促す内容とすべき
- ・年間で一定時間の受講を努力義務として課す

(cf.APECエンジニアは、更新期間の5年間に250CPD時間が必要) 3

大学等における技術者教育

「リベラルアーツ」(一般教養教育)の拡充に加え、例えば、以下のような実践性の高い教育内容を積極的に導入

- ・数学等の基礎教育 及び 実験、実習、演習
- ・デザイン教育
- ・卒業前6か月程度の企業実学体験(インターンシップ)
- ・技術士による、「技術士」「技術者のキャリア形成」等をテーマとした授業

(大学等の高等教育機関)

- ・卒業後も技術士試験を受験するまで、大学と大学技術士会がフォロー

技術者のキャリア形成(イメージ)

